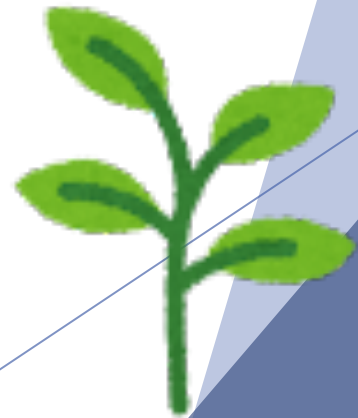


感染症内科

内科専攻医（感染症内科）プログラム

感染症内科 医長 山田晴士



前提

- ▶ 感染症内科を目指す医師は、3～5年目は“感染症以外”も重点的に学ぶ期間とすることをおすすめしています。理由は以下の2点です。
 - ▶ 全ての臓器別感染症を診られるようになるべく、まずは感染症に限定せず全身を診られるスキルを身につけることが推奨されるため。
 - ▶ 主治医として責任のある診療を経験することで、コンサルテーションを行う際に主治医に寄り添った診療ができるようになるため。
- ▶ そのため当院の内科専攻医（感染症内科）プログラムでは、感染症内科だけではなく複数の診療科をローテートする仕組みを作っています。

感染症専門医までの道

卒後年数	感染症内科医を目指すルート（岡山市民病院Ver）
1	初期臨床研修医
2	
3	下記診療科を中心に内科専攻医として活動 ・ 感染症内科/総合内科 ・ 血液内科 ・ 呼吸器内科 2年目（卒後4年目）は院外研修、うち4か月間はせのお病院を推奨
4	
5	
6	感染症内科フェロー
7	
8	感染症内科スタッフ（感染症専門医試験）
9	感染症内科医としてキャリアを継続
...	
...	

3年間のイメージ（例）

専攻医 期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	感染症内科/総合内科						血液内科					
2年目	せのお病院				連携施設							
3年目	呼吸器内科		選択診療科				感染症内科/総合内科					

感染症内科/総合内科①

▶ 業務内容

- ▶ 臨床感染症コンサルテーションを受けながら、総合内科 枠として入院主治医としての業務を行います。
- ▶ 毎日午後に実施しているASTカンファレンスに参加し、血液培養陽性例への介入を行います。
- ▶ 毎週水曜日午後、AST勉強会に参加していただきます。

感染症内科/総合内科②

▶ 学べること

- ▶ 全診療科からのコンサルテーションを受けることで、**臓器横断的な感染症診療スキル**を養います。
 - ▶ 疾患群の一覧は当院感染症内科のHPをご参照下さい。
- ▶ **他診療科医師とのコミュニケーション方法**についても学ぶ機会になります。
- ▶ 総合内科病棟において**全人的なマネジメント**を身につけられます。

血液内科、呼吸器内科

感染症診療との繋がりが深い2診療科で、数カ月間勤務していただきます。

▶ 血液内科

- ▶ 悪性腫瘍・免疫不全患者の診療、特に化学療法について学びます。
- ▶ 重点的に診療を行うことで、他臓器における腫瘍・化学療法のマネジメントにも応用できるようになり、難治性感染症の診療スキルを身につけられます。

▶ 呼吸器内科

- ▶ 呼吸管理、胸部レントゲン・CT画像評価、緩和医療を学びます。
- ▶ 重症患者の管理、肺炎及び肺炎の類縁疾患の評価・診療指針を学び、多角的視点から感染症を診られるスキルを身につけられます。

院外研修

- ▶ 当院の連携施設で感染症・感染症以外に関わらず幅広い内科診療を経験していただきます
※連携施設は当院内科専攻医プログラムのHPをご参照ください。
- ▶ せのお病院
 - ▶ 岡山市立総合医療センターとして、当院と同一グループの医療機関です。
 - ▶ 慢性期疾患の内科・整形外科症例を多く経験できます。
 - ▶ 当院で診療経験のある総合内科医、感染症内科医が所属しており、**全人的な総合診療と感染症診療・感染対策**も学ぶ機会が得られます。

ローテーション中も感染症Mindを維持するために

- ▶ 専攻医期間中は**AST（抗菌薬適正使用支援チーム）メンバー**としても活動していただきます。
 - ▶ 感染症内科/総合内科研修期間中は、前述の通りカンファレンス・勉強会へ出席していただきます。他診療科をローテーションしている期間は要相談です。
 - ▶ 感染管理室会議や、ICT・AST関連のイベント等への参加を勧める場合があります。
- ▶ 定期的に感染症内科医長との面談を行います。
 - ▶ **1on1ミーティング**というマネジメント手法を行います。**専攻医の成長支援やモチベーション向上**を目的とし、月1回程度実施します。

当院のプログラムで
幅広い診療スキルをもった
感染症内科医になれることを
お約束します！